

三河港湾事務所におけるSDGsの取り組みについて



私ども三河港湾事務所では、以下の取り組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、三河港・衣浦港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



物流と環境を守り、地域産業を支える港湾整備

三河港湾事務所では、「三河港神野地区」と「衣浦港武豊北ふ頭地区」において取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応するため、国際物流ターミナルを整備しています。

現在、「三河港神野地区」で整備している防波堤では、スリット(開口部)を設置した透過型防波堤構造を採用し、天然あさがり分布する六条潟への影響に配慮した港湾整備を進めています。また、全国で15箇所ある開発保全航路のうちの1航路である「中山水道航路」の管理・保全を行っており、三河港に入港する大型船舶等の航行の安全を確保し、三遠南信地域の産業を支えています。



三河港



衣浦港



『ごみを拾う530のまち』を目指して！530運動への取り組み

豊橋市では循環型社会の構築を目指し、市民・事業者・行政が一体となって530運動に取り組んでいます。三河港湾事務所では、1年に2回の春と秋に分けて530運動に参加しています。一人一人の『ゴミを捨てない』という意識を醸成することで、みなと付近の環境保全や、みなとの利用促進に繋がると考え、今後も530運動の実施や周知を行っていきます。



530運動の様子



回収したゴミの分別

【2021年度以降の目標】のべ参加者数:2021年度32人 → 2030年度300人



きれいな三河湾を未来へ繋ぐ！環境学習の実施

三河港湾事務所では、地域のNPO法人の方々と連携し、地元の子供達に海の環境や干潟の役割等を理解してもらうことを目的として、干潟での生き物調査や海の水質調査等の環境学習を行っています。

環境学習を通して、子供達に環境を大切にすることを育てて頂けるよう、今後も活動が続けていきます。



干潟での生き物調査の様子



海の水質調査の授業風景

【2021年度以降の目標】のべ参加者数:2021年度210人 → 2030年度2,000人